２　番　藤　　原　　通告順位５番、議席番号２番、藤原浩です。

件名「やまきたまち鉄道レガシーの更なる活用推進で町の活性化を」。

町長は、７月29日に行った所信表明で、山北町にしかない豊かな自然や歴史的資産の発展性を最大限に引き出し、それを地域振興につなげていく取組として、「山北オンリーワンを磨き上げる政策」を掲げている。その１番目に、「蒸気機関車Ｄ52の軌道延伸」を掲げている。

鉄道公園のＤ52は、日本で唯一動く蒸気機関車であり、昭和期の鉄道史を語る上で、大変貴重な車両である。また、明治22年東海道線の開通と同時に開業した山北駅は箱根越えの基地として栄え、山北駅前には、多くの商店が軒を並べ、大変なにぎわいを見せていたという。そうした当時の繁栄を伺える痕跡が、山北駅周辺を含め御殿場線には、鉄道レガシーとして多数存在している。そうした状況と町長の施策を鑑み、以下の質問を行う。

１、軌道敷を延伸したＤ52を活用した乗車体験や運転体験の実施を検討と掲げているが、現在、町にＤ52を操作できる人材がいないと認識している。以前に運転手の教育に参加していた方も、高齢化等の理由で現状では特に進展がうかがえないようである。取組予定の約30メートルの軌道敷延伸に合わせ、新たに町内在住の方は無償、町外参加者は有償で参加を公募し、Ｄ52運転手の人材育成に努めたらどうか。

２、御殿場線沿線、特に山北町内には鉄道ファンのみならず、後世に伝えるべき貴重な鉄道レガシーが多数存在している。山北町でも2018年までは、「鉄道遺産巡りツアー」を開催し好評を博していた。いまだに新型コロナ感染のニュースが耳目を集める状況ではあるが、今年は、行動制限のない夏休みを迎えることができた。そうした状況を踏まえ、今年度から鉄道遺産巡りツアーを町単独、もしくは民間団体と連携し、進める取組を再開してはどうか。

３、町の小学校では、町教育委員会で編さんした資料を用い、町の産業や歴史・文化について学ぶ教育を行っている。その中で、「鉄道のまち・山北」についても取り上げているが、鉄道レガシーについては触れていないようである。鉄道レガシーの中には、昭和20年、1945年、海外向けの終戦玉音放送を行った箱根第５号トンネルもあり、町に暮らす人々に伝えるべき貴重なレ

ガシーである。これから町教育委員会で改訂が予定される資料では、検討項目として掲げ、鉄道レガシーについて伝えるべきと考えるがどうか。

以上です。

議　　長　　答弁願います。

町長。

町　　長　　それでは、藤原浩議員から「やまきたまち鉄道レガシーのさらなる活用推進で町の活性化を」についての御質問をいただきました。

初めに、１点目の御質問の「軌道敷を延伸したＤ52を活用した乗車体験や運転体験の実施を検討と掲げているが、取組予定の約30メートルの軌道敷延伸に合わせ、新たに町内在住の方は無償、町外参加者は有償で参加を公募し、Ｄ52運転手の人材育成に努めたらどうか」についてでありますが、鉄道公園の計画では、既存遊具を平山のびのび公園や丸山公園に移設し、公園内の東側に誰もが遊べる新たな複合遊具を設置し芝生を張り、次年度以降にＤ52の軌道敷の延伸を進めていく予定となっております。

軌道敷延伸に合わせ、町内外から参加者を募り、新たにＤ52運転手の人材育成に努めたらどうかとの御提案をいただきましたが、Ｄ52整備関係者との意見交換においても、運転体験や乗車体験での集客や整備運行の動画配信など、多くの可能性を秘めているとのお話をいただき、私としても基本的には御提案に賛同したい考えですが、一方で、むやみに運転手の人選をすることはどうかとも思っております。やはり、日本で唯一動態保存されているＤ52であるからこそ、その運転を担っていただく方には、Ｄ52運転手としての誇りを持っていただける方、愛着を持ち将来にわたって運転手として従事していただける方であっていただきたいとの思いがあります。ぜひ、そのような方に運転手として応募していただき、将来のＤ52運行の担い手となっていただきたいと考えております。

次に、２点目の御質問の「今年は、行動制限のない夏休みを迎えることができた。そういう状況を踏まえ、今年度から鉄道遺産巡りツアーを町単独、もしくは民間団体と連携し、進める取組を再開してはどうか」についてでありますが、町では、平成28年度のＤ52奇跡の復活祭以降、Ｄ52を活用した元気なまちづくり事業の一環として、町内に残る御殿場線複線時代のトンネル

跡や、橋梁跡などの鉄道遺産を見学するイベントを企画し、多くの参加者に鉄道のまち山北を広くＰＲしてまいりました。

こうした取組の中、平成30年度、Ｄ52フェスティバルと同日に約２時間のバスによる鉄道遺産巡りツアーを実施した際には、参加者の約８割が町外の方でありました。

このことからも歴史遺産を活用して町の活性化につなげていくためには、山北町内だけでなく町外からの鉄道愛好者、山北ファンを増やし、山北町の歴史に触れていただくことが重要であり、町民に限らず多くの方が参加するイベントや行事に合わせたツアーの開催が効果的であると考えております。

また、民間団体との連携として、ツアーでは、著名な方を講師に迎えるなど、平成28年度の取組開始から、町内団体であるＮＰＯ法人情緒豊かな町づくりをはじめ、小田原鉄道歴史研究会や、ごてんばせん元気づくり推進機構など、町外の民間団体と連携を図りながら事業実施をしているところであります。

さらに、山北町地域文化遺産活性化実行委員会が、文化庁補助事業により鉄道遺産マップ作成やガイド養成講座を実施しており、今後の幅広い活動に期待を寄せております。

また、今年度は、文化財めぐりウオーキングを10月に開催し、内容の一部に鉄道遺産を紹介することとなっております。

今後も引き続き、生涯学習や文化財に関連した講座等の開催を検討する際には、鉄道を重要なキーワードとして必要に応じて位置づけ、さらなる町の活性化のため、貴重な資源を積極的にＰＲしてまいります。

次に、３点目の御質問の「鉄道レガシーの中には、昭和20年に、海外向けの終戦玉音放送を行った箱根第５号トンネルもあり、町に暮らす人々に伝えるべき貴重なレガシーである。これから町教育委員会で改訂が予定される資料では、検討項目として掲げ、鉄道レガシーについて伝えるべきと考えるがどうか」についてでありますが、町教育委員会では、副読本として、小学校３・４年生用に町の産業や暮らしをまとめた「わたしたちの山北」を、５年生、６年生用に町の歴史や文化をまとめた「歴史・文化から学ぶわたしたちの山北」を作成し、学習活動に活用しております。

これらの副読本は、４年ごとに内容を見直し、内容の充実にも努めております。

鉄道に関しましては、３・４年生用では「山北町のうつりかわり」の項目で、「鉄道のまち」と呼ばれていた頃の町の様子を、５年生、６年生用では、歴史の項目の鉄道、関東大震災、戦争に関することでそれぞれ取り上げております。

御質問の箱根第５号トンネルにつきましては、５年生、６年生用の「戦争に関すること」の項目で、山北に残る戦争遺跡の一つとして、谷峨駅近くの廃トンネルの中には通信施設があり、終戦を告げる玉音放送をここから海外へ向けて送信し、爆撃から内部を守る爆弾防止壁が今も残っていることを、当時と現在の写真つきで紹介しております。

今後も「わたしたちの山北」や「歴史・文化から学ぶわたしたちの山北」を活用し、零歳から15歳までの一貫教育・保育推進の重点内容の一つの郷土愛の育成を推進してまいります。

議　　長　　２番、藤原浩議員。

２　番　藤　　原　　今回、この町長の所信表明を伺って、この鉄道に関してのお話を伺った際に、非常に私期待をしているところです、今。これ、答弁に関しては、基本的に具体的なところはあまりまだお話しされてませんけれども、やっていただけるんだというふうに理解しております。

その今度中身の話なんですけど、実際、町長もおっしゃるように、むやみにというか、これそんな簡単にこういうことは実現できないよというのは非常によく分かります。

ただ、現状としては、今進められてる運転者の育成というのが、この通告書にも書いたとおり、あまりそれほど予定どおりというか、潤沢には進んでないように聞いておりますけれども、それを現況を含めて今後どういうふうにやられる予定があるのか、もしも考えがある程度ここで披瀝いただければお伺いしたいというふうに思います。

議　　長　　町長。

町　　長　　やはり延伸した後の運転手の養成というのは、もう一番の項目であります。今現在、山口県から来ていただいておりますけど、非常に大変だというふう

には感じておりますんで、何とか町内の人でもやっていただける方を、何とか育成したいというふうに思っておりますんで、その人選については、もちろん応募していただかなければいけないんですけど、やはり数を増やせばいいというもんではなくて、やはり今のところ、月１回動かしておりますから、それに対応できるような人材を数名程度できればやっていただく方を探して、何とか訓練を練習をしていただければありがたいなというふうに思ってます。それ以外は、やはりそれに付随した様々な町の活性化を、やはり動くＤ52があるという、日本で１台機種でございますんで、それをいかに活用していくかは我々に課せられた宿題だというふうに思っておりますんで、ぜひ皆さんからね、いろいろな意見をいただきたいというふうに思っております。

議　　長　　藤原浩議員。

２　番　藤　　原　　おっしゃるようにね、町長もこのＤ52の運転する方、運転手の人材育成についてはしっかり捉えられているとは思うんですけれども、さすがに外部からというのは簡単にはいかないというのは分かります。ただ、これに関しては非常に鉄道ファン、その他非常に関心が高いことではあるんで、外部から応募すればすぐに集まることではあるんで、町の中でしっかりその辺もんでいただいて。おっしゃるように、やっぱりまず町内で人材育成するべきだと思うんですよ。ただ、やはり高齢化への波やらいろいろな理由で進んでいないというのは事実なので、事実だと思うんです、私の聞いている話では。なので、そこはちょっと今ここで具体的な話いただけないのは仕方ないですけれども、今年鉄道100周年記念です。旅行業界なんかそれで非常に盛り上がってましたけど、去年までは。ただ、やはりコロナが進んでないということで、思ったようなイベントが開催できてないのが日本全体での現状です。

ただ、先ほどこの中でも、通告書の中でも申し上げましたけど、ようやく行動制限がない夏休みができたということで、来年以降は非常に期待できる状況になるんではないかというふうに考えております。ですので、その辺をしっかり町のほうでも捉えて、なるべく早い状態でその辺の計画を提言していただきたいというふうに考えておりますので、その辺は重々お願いしたいというふうに考えております。

次にですね、２点目、鉄道遺産めぐりツアーの件です。これにつきまして

も、基本的には肯定するお考えだというふうには思うんですけど、ただ、これで具体的にどうこうというお答えまでは至ってないんですが、これどうですかね、町として、今年度今すぐというのはなかなか難しいかもしれないんですけど、再開する考えについてはどうなんでしょうか。

議　　長　　町長。

町　　長　　ぜひね、再開したいというように考えております。どういう再開がいいかどうかというのは、いろいろ検討しなければいけませんけども、私なんか例えば線守稲荷とか、ああいうのもあるし、いろいろなものもあるからというふうに言うんですけど、なかなかあの中に入っていくということになると、ＪＲ東海さんのほうがなかなかオーケーをしてくれないということで、そういったような難しさもありますんで、ぜひ可能な限りいろいろなものが、単に分かっているだけでなくてね、ほかの例えば我々から見たら、申し訳ないけど、どうってことはないなと思うような石垣だとか、そういうような、鉄道のこういったものがマニアの方によってはすごく貴重だとかね、そういうことをおっしゃいますから、どれが皆さんにとって鉄道遺産としてすばらしいのかね、私もよく理解しておりませんけども、大量にあるということは間違いないというように考えておりますので。ぜひ、そういったようなことを含めて、鉄道遺産をもう一度洗い直して、ツアーのどういうような形になるか分かりませんけども、ぜひ、そういうようなことを復活できたらよろしいんではないかというふうに思っています。

議　　長　　藤原浩議員。

２　番　藤　　原　　おっしゃるように、これこの後の３のほうにもちょっと関わってくる問題にはなるんですが、現在鉄道遺産レガシーの中には、立ち入れない箇所がいくつもあります。先ほどおっしゃった線守稲荷もそうですし、第５号トンネルについても、遠くから存在は確認できますけれども、中には入れない状態です。ですんで、その辺も考えて、例えば線守稲荷に関しては、数年前までは地域の自治会長さんとかに入っていただいて、お参りすることができたという実績が近年まではあったんで、ですんで、もちろん民間団体と連携してという活動も今後必要だとは思うんですが、まず一つ、町のほうが再開していただいて、観光だけではなくて、この後にもお話しするような社会教育学

習等にも役立てていただくようなことを鑑み、それでＪＲのほうに働きかけていただき、それで連携じゃないや、鉄道ツアーのほうの再開も試みていただくというのが一番魅力価値を高める上では、町長が提唱しているオンリーワンということにも非常に連携する話なので、そこも含めてお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

議　　長　　町長。

町　　長　　おっしゃるように、どうしてもＪＲ東海のほうの交渉が必要になるというふうに思っておりますんで、できればね、そういったような交渉の窓口は、当然町が間に入らなければ無理だというふうに思っておりますので、そういった中で、ぜひＪＲ東海さんのほうに理解していただくような取組をしていきたいというふうに思っています。いろんな橋についても、いろんなところに行っていますし、もともと複線だったところが横須賀のほうに行っているとか、様々な歴史を持っておりますので、ぜひそういったものを鉄道ファンの皆さんに理解していただけると山北町にとってもありがたいなというふうに思っております。

議　　長　　藤原浩議員。

２　番　藤　　原　　そこでなんですけど、この文化財めぐりウオーキングで鉄道遺産を紹介するという話は、これの関係団体のほうからちょっとお話は伺っているところなんですけど、現在では、この鉄道遺産はどこを紹介するようなお考えでしょうか。

議　　長　　生涯学習課長。

生涯学習課長　　お答えいたします。10月に予定しております文化財ウオーキングですが、ちょうどそこの横のところのガードのところですね。そこが橋台だったということで、そこを御紹介する。そこと、あとは室生神社までが線が入っていたということで、そこについても歩いてめぐる予定でおります。

議　　長　　藤原浩議員。

２　番　藤　　原　　今おっしゃっているのは室生神社の鉄道へつなぐルートだと思うんですけど、待機線のことをおっしゃっているのかと思いますけど、それとあと、ガードというのはあれですかね、停車台のことですかね。それともガード自体を紹介されるんですか。

議　　長　　生涯学習課長。

生涯学習課長　　ガードのところに複線のところの橋台がございます。そこを見ていただく予定でおります。

議　　長　　藤原浩議員。

２　番　藤　原　　この後、また３でもちょっとお話させていただきますけれども、山北の鉄道遺産に関しては、おっしゃるようにその二つもそうなんですけど、例えばここの今役場やら生涯学習センターが建っているところも、もともと鉄道用地で、山北はこのエリアに町のこういう公的機関をかためられたというのは、鉄道遺産を継承したからということが非常に大きいんで、その辺も含めて、御紹介いただければ。例えばあと、山北の駅前商店街ですね、あれも鉄道官舎を活用したというふうに聞いていますんで、非常に山北というのは本当に鉄道に基づいた痕跡が残されているところなので、それも含めて、これ３につながる話とさせていただきますが、紹介というか町民にもっと広く知らしめていただきたいと。先ほどのこの文化財めぐりウオーキング、これ対象がどの辺の人たちを対象にして行われる考えか分かりませんけれども、その辺のことも含めてツアーに盛り込んでいただきたいというふうに考えます。

それでですね、３が、今度社会教育に絡む話なんですけども、これ今のこの答弁書のほうを拝見しますと、５・６年生のやつで、「戦争に関すること」の項目で取り上げているというふうにお答えいただいています。これ私がヒアリングした際には、ちょっと私の説明が、じゃあうまくなかったのかもしれませんけれども、この第５号トンネルについては関わっている方があまり承知されてなかったようなので、こういう質問となりましたけれども。これ一つに戦争に関する、山北に残る戦争遺跡として取り上げていただくのも非常に重要なんですが、山北の歴史を知る上では、今申し上げたような点も含めて教育の中で生かしていただければ、山北への帰属意識ですとか、そういったものももっと高まっていくと思うので、これ子どもだけではなくて、山北に今住んでいらっしゃる年配の方でも知らない方が結構大勢おいでなんで、どこかで今後伝えていただければなと。先ほどおっしゃっていた文化財めぐりウオーキング、これもしも町内での参加者がある程度数いらっしゃるんであれば、その辺もどこかでお伝えいただきたいなというふうに考えておりま

すが、いかがでしょうか。

議　　長　　町長。

町　　長　　おっしゃるようにですね、私も５年生、６年生だけでなくてね、全部を紹介するわけにはいきませんけど、町の広報か何かでね、最低限のところはね、少し町民の方にもお知らせしていくほうがいいんではないかというふうに考えておりまして、そういったような方向で、すぐにはちょっと分かりませんけど、何とかね、そういったような日にちが取れて、ああ、こんなふうにやっているのか。小学生にこういうふうに副読本でやっているのかというのを町民の方にも分かっていただいたほうがいいと思いますので、これは必ずしも鉄道遺産だけじゃなくて、様々な歴史がございますので、そういったことをね、町民の方にもお伝えしたいというふうに思っております。

議　　長　　藤原浩議員。

２　番　藤　　原　　今町長がおっしゃったように、山北は鉄道遺産だけではなくて、本当に豊富な歴史文化財、いっぱいあります。今回、鉄道遺産ということで一般質問させていただきましたが、今後山北町が人口増に向かって進んでいくのか。それとも、これ、もう日本全体の問題ですんで、ある程度この人口減というのを受け止めて、それで町政運営していくのか、そこはまだなかなか図りかねるところですけれども、それにしてもやはり地域のそういった遺産ですとか文化財をきちんと受け止めて、それで山北の誇り、郷土愛、そういうものを醸成していけば、それなりにしっかり山北という町が維持できるようなことにつながるのではないかと。例えば御殿場線に限らず、今全国で特にＪＲ東日本とかですね、鉄道の廃線とかがうわさされていますけど、山北の使うような御殿場線も決してそういう心配がないとは言い切れない状態ではあると思いますので。そういったことが取り沙汰されたときに、我が町の御殿場線に対する愛情があれば、それをストップさせるようなことにもつながるのではないかと思いますので、今回小学校のことを取り上げさせていただきましたけれども、おっしゃるように、これは全体でそういった歴史文化財全て含めて伝えていただくような努力をしていただきたいというふうに考えておりますので、よろしくお願いします。

以上で終わります。

議　　長　　教育長。

教　育　長　　子どもたちに、３・４年生、５・６年生、「歴史・文化から学ぶ　わたしたちの山北」、この副読本を使って、今学習活動を進めています。町民の方へということなんですけども、平成29年に「わたしたちの山北　歴史・文化から学ぶ」これが初版本でした。このとき作ったときに町民の方、希望する町民の方へということで、約20部ぐらいですかね、希望される方ということで配布させていただきました。大変好評で、ただそれ以上のちょっと増産はできませんでしたので、それで終わってしまったんですけども。その後、図書館のほうにこの２冊については置いてありますので、自由に貸し出しすることができます。ですから、町民の方々もこの副読本を見ることが可能になってございます。

さらには、今後の中ではですね、ホームページできちんと紹介したり、あるいは場合によっては電子書籍ということも考えていきたいなというふうに考えてございます。

２　番　藤　原　　以上ですと言ったんであれですけど、いいですか、ちょっと。

議　　長　　藤原浩議員。

２　番　藤　原　　すみません、今ちょっと教育長の答弁いただいたんで、一言。おっしゃるように、「わたしたちの山北」、小学生向けではありますけども、非常にいい本だと思います。私も持っています。ですんで、それも結構参考にさせていただくし、非常に要点がまとめられていて分かりやすい内容だと思いますので。そうおっしゃるように、今までデジタル化されてないんで、なかなか一般の人に広く知らしめることがなかなか難しかったんだと思うんですけど、先ほど町長が別件でおっしゃったように、情報の配信というのは非常に大事になります。そういったときに、デジタル化というのが非常に武器になるので、さっきデジタルデバイドの話されてたところがありますけれども、その点ではデジタル化というのは進めて、情報配信して町の価値を高めていく。なおかつ価値を知らしめていくといった活動は非常に重要になると思いますので、よろしくお願いします。

以上です。